
北千住どろんこ保育園

令和4（2022）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研データサービス



1. 東京都第三者評価推進機構提出内容

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10より100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)”感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子ども達につけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せ、背中で教えてゆける人 より良い保育を目指して創意工夫していける人 ・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔で心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中の言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	日々の保育で商店街ツアーや公園の散歩など、子どもたちが地域の人とさまざまな交流や体験をする機会がたくさんあります
	内容	商店街、公園など、地域には子どもたちが徒歩で行ける場所がたくさんあります。公園では、そこにしかない遊具で遊んだり、木の実や落ち葉を集めたりします。商店街には手紙を書く葉書を買に行ったり、遊びに使う段ボールをもらいに行ったり、仕事の様子を見学したりと目的に合わせて出かけています。お別れ遠足で5歳児が歩いて近隣にある世界一高い電波塔まで行って、帰りは電車を利用する機会もあります。地域の方が来園して縄跳び作りや書道体験をいっしょに行ったり近隣地域の施設で人々と交流したりして、さまざまな体験をしています。
2	タイトル	職員が検討を重ね、子どもたちにさまざまな体験をしてもらい、子どもたちの食べ物の大切さ、命を大切に感じる気持ちを育てています
	内容	園内でやぎや鶏を飼育し、畑では季節の野菜を栽培しています。畑仕事や生き物の世話は子どもたちの日課であり、できることを担当しています。今年度は、命をいただく大切さを伝えるため、園で飼っている鶏を肉にし食べるところまでを子どもたちに体験させ、経験を通し、命をいただいていることの大切さや食べ物を大切にすることについて学んでいます。この影響もあり子どもたちの給食の残食は減っています。職員が検討を重ね、子どもたちにさまざまな体験をしてもらい、子どもたちの食べ物の大切さ、命を大切に感じる気持ちを育てています。
3	タイトル	職員のていねいな説明と取り組みによって保護者が園の理念方針の理解を深め、安心して子育てができるよう支援しています
	内容	園見学では施設長が特色ある保育について説明し、入園後に「こんなはずではなかった」ということがないよう、ていねいに説明しています。入園後は保護者懇談会で、保育のねらいや園での子どもの様子を説明します。保育参加では、保護者が保育者の仕事を体験し、その大変さや大切さを知る機会となっています。保護者の有志が行事の手伝いなどを行っています。これらのさまざまな機会に職員と交流することで、保護者と職員が交流を深め保育を知る機会となり、園の理念や方針を理解し安心して園を利用することにつながっています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	その日の子どものエピソードを伝える方法について、検討することをおすすめします
	内容	「3分間対応」を目標に、保護者に直接日々の子どもの様子を伝えるよう取り組んでいます。幼児では、その日の出来事について親子の会話として広げてほしいので、職員から保護者に直接子どもの様子を伝える機会を大切にしています。しかし、話しが長くなる場合もあり、ほかの保護者が待たされたり、都合により手短かに済ませてほしい保護者もいるため、その対応方法の明確化が課題となっています。保育アプリの活用や手短かにエピソードを伝える方法など、多様な方法を学び合ってはいかがでしょうか。
2	タイトル	職員の知恵も借り、園の特徴を踏まえたSNSや動画での発信などさまざまな発信方法を検討してはいかがでしょうか
	内容	園では園庭開放や子育て相談、自然食堂（親子ランチ交流）、育児講座など地域の子育て支援の活動を進めています。また、併設の「発達支援つむぎ」との連携によるインクルーシブ保育にも力を入れています。園の外掲示、ホームページ、散歩時の公園でのチラシ配布などの取り組みを進めていますが、園の取り組みが地域にまだ浸透していないと考えています。これまでの取り組みに加え、園の特徴を踏まえたSNSや動画での発信、図書館など公的施設にチラシを置かせてもらうなど、職員の知恵も借りさまざまな発信方法を検討してはいかがでしょうか。
3	タイトル	事業継続計画（BCP）をさらに充実させ、区、消防、警察とも連携できるようにするとおよいでしょう
	内容	事業再開の手順を含む事業継続計画（BCP）はありますが、実際の場面でより使いやすく充実させてはいかがでしょうか。危機管理マニュアルは人命を守ることが重点ですが、事業継続計画は事業の速やかな再開など、事業継続を焦点にしています。園は、災害、感染症、事故、不審者などのリスクに対し、クライシスマニュアル、危機管理マニュアルなどで、それぞれの対応フローチャートを策定し、避難などの初動対応、被害状況把握、連絡体制などを確立しています。事業継続計画の内容は、区、消防、警察とも連携できるようにするとおよいでしょう。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	発達支援施設の子どもといっしょに過ごすなど、インクルーシブな保育を目指しています	
内容①	園ではインクルーシブな保育を旨とし、異年齢保育や園の子どもと併設施設の「発達支援つむぎ」の子どもがいっしょに過ごせるよう工夫しています。子どもたちが自分の好きな席を選ぶことができるようにすることで、園の子どもとつむぎの子どもがいっしょのテーブルで交ざり合っ給食を食べました。発声の少ない幼児がつむぎの子どもとの交流の中で、言葉かけができるようになり、先生にも返事ができるようになりました。職員のなかにも、集団は子ども同士のかかわりが増え、人間関係が築かれる力になるとの確信も生まれています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	子どもの考えや意見を取り入れ、主体的に活動に取り組めるよう職員は配慮しています	
内容②	園の行事や活動では、子どもの主体性を大切にするため、子どもたちと相談して子どもの考えや意見を取り入れる機会を大切にしています。遠方への散歩で長距離の歩行が難しい子どもはどうすれば参加できるかを子ども同士で話し合ったり、運動会では、種目を決めたり、どのように進めていくか話し合っています。また、失敗した場合はどうすれば良いか話し合うなど、子どもが自分たちで意見を出し合いながら、活動や遊びを進めていく機会を大切にしています。職員は、職員が答えを出し過ぎないよう、子どもの意見を尊重し、配慮ながらかかわっています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル③	園は、園庭開放と育児相談など地域の子育て支援の活動に積極的に取り組んでいます	
内容③	園は、毎週月曜日から土曜日に開催の園庭開放と育児相談、毎週水曜日の自然食堂（親子ランチ交流）、毎週金曜日の芸術学校・自然学校、育児講座など地域の子育て支援の活動に積極的に取り組んでいます。また、月1回、近隣の公園で青空保育と称して地域の子育て親子と園の子どもがいっしょに遊ぶなどの取り組みを行っています。併設施設の「発達支援つむぎ」との連携によるインクルーシブ保育にも力を入れ、発達支援の相談にも応じています。またこれらの活動は園のホームページや毎月1回発行の「ちきんえっぐだより」で地域に発信しています。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	◆1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	あり	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
あり	◆1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
あり	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
あり	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
あり	◆2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
あり	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
カテゴリー1の講評		
公表コメント	キックオフミーティングや保護者懇談会などで、理念などについて理解を促しています	
	「私たちの子育て」(保育理念)に「自分で考え行動」できる子ども主体の保育と、全職員が全ての子どもを保育する家庭的な「大きな家」を掲げています。運営理念・子育て目標などは、全職員配付の「保育品質マニュアル」に掲載し、毎年3月開催の異動してきた職員を含む全職員の会議「キックオフミーティング」で理解を深め、年間の園目標を決めています。保護者には入園説明会や保護者懇談会で資料を使って説明しています。また、理念・保育目標などをファイリングし入口付近に設置して、保護者がいつでも確認できるようにしています。	
	施設長は園業務を統括し、リーダー層と連携して園の運営全般をリードしています	
	園の運営規程や保育品質マニュアルの「職務担当者の役割」に施設長は園業務を一元的に統括することが明記されています。施設長は施設長、主任、幼児、乳児リーダーで構成するリーダー会議、職員会議などを通じ園運営をリードし、事業計画、事業報告も策定します。指導計画作成の指導、保護者対応、人事労務管理なども主任と連携して行っています。施設長は区の子ども家庭支援課との連絡窓口となっています。どろんこ会グループの施設長会議に出席し、園の運営について報告すると共に、グループとの調整業務も担うなど園全体をリードしています。	
非公表コメント	人事、園庭整備などの重要事項は、経緯を職員や保護者に周知しています	
	事業計画や事業報告の作成は、全職員の参加で、1月の年間の「ふりかえり会議」、2月と3月の目標や計画を策定する策定会議などで職員の意見を把握した上で施設長が起案し、どろんこ会グループの了承を得た後、職員に周知します。重要な案件のうち、子どもや保護者に大きくかわる人事、絵本や遊具などの新規導入、労働環境の改善などは、リーダー層や職員の声を踏まえて決めます。保護者の意見から園庭整備を行った際には内容や経緯を、職員には職員会議で説明し、保護者には保育アプリのお便り機能や園内掲示を使い配信しました。	
カテゴリー1の講評補足		

2		カテゴリ-2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリ-1(2-1)			
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6	
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)	
評価	標準項目		
あり	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		
あり	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している		
あり	5. 事業所の経営状況を把握・検討している		
あり	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		
サブカテゴリ-2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)	
評価	標準項目		
あり	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している		
あり	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		
あり	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		
あり	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		

	<p>カテゴリー2の講評</p>
<p>公表コメント</p>	<p>園の内外環境やニーズを把握し、地域の子育て支援など園の課題を抽出しています</p> <p>アプリによる利用者アンケートや保護者との会話などから保護者の意向を把握しています。職員会議などから園運営への意見や意向を把握しています。見学者や地域の子育て親子対象の青空保育、園庭開放、育児相談などから子育て支援ニーズを把握したり、区の子育て支援課から子どもの人口動態や地域の保育園の空き情報など福祉事業の動向を把握したりしています。どろんこ会グループの施設長会議で提示された財務資料によりグループや園の経営状況も把握しています。これらの情報から、子育て支援や保護者満足度の向上など、園の課題を抽出しています。</p>
	<p>抽出した課題に基づき、毎年3か年の中期計画と事業計画を策定しています</p> <p>園の中長期計画は年度事業計画の最後に「3か年計画」として章立てし、毎年の事業計画の中で1年ずつ更新しています。毎年の事業計画は3か年計画を踏まえ、前年度の「ふりかえり会議」、保育計画、年度目標などの「策定会議」を経て、保育内容の充実の質の向上、保護者支援、地域の子育て支援事業、職員の育成の取り組みなどの項目で策定し、抽出した課題を事業計画に具体化しています。どろんこ会グループ作成の予算管理表などに基づき、職員の意見を踏まえた上で、施設長が計画に必要な予算についてグループに相談・確保し計画を進めています。</p>
	<p>計画実施に当たっては目標と達成度合いを定め、計画の確実な実行に取り組んでいます</p> <p>事業計画は年度ごとに、衛生管理、安全対策、防火管理、畑、生き物などの各係やプロジェクトを決め、これとは別に行事、地域子育て支援では青空保育はクラスで交代して取り組むなど、職務分担表に基づき全職員が担って計画を推進しています。計画の進捗は毎月の職員会議や年度末の「ふりかえり会議」(職員会議)で確認します。計画の推進においては子育て支援では園内研修は毎月開催、園庭開放毎月50名、商店街ツアー週1回実施、設備点検・事故防止チェックは年4回実施など目ざす目標や達成度合いを測る指標を明示し確認しています。</p>
<p>非公表コメント</p>	<p>カテゴリー2の講評補足</p>

3		カテゴリ-3	
経営における社会的責任			
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	◆1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		
あり	◆2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している		
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
あり	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
あり	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		
あり	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの見学・実習の受け入れ体制を整備している		
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		
あり	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		
あり	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		

	<p>カテゴリー3の講評</p> <p>保育品質マニュアルの記載事項や就業規則で人権擁護の視点を職員間で共有しています</p> <p>個人情報保護や守秘義務、コンプライアンスなどは、保育品質マニュアルの記載事項や就業規則で職員に周知しています。年2回「児童・保護者の人権に関するチェックシート」で職員が自己点検を行います。他施設の不適切事例は職員会議、朝礼、昼礼で共有します。苦情解決制度は園のしおりに掲載し入園説明会で保護者に周知します。保護者が確認できるよう苦情解決制度の文書をファイルに綴じ入口付近に設置しています。子どもの送り迎えのルール徹底についての意見には、職員会議で話し合い、改めて保護者に徹底するなど解決に取り組んでいます。</p> <p>自己チェックや早期発見チェックリストを活用し、虐待防止に組織的に取り組んでいます</p> <p>虐待防止に向け、保育品質マニュアル掲載の虐待の4類型や虐待の疑い、発見の際の手順を職員会議で共有しています。「人権に関するチェックシート」に沿って、「制止する言葉を不必要に使わない」「トイレを強制しない」「待たせない」など虐待防止について話し合い、接遇研修でも確認しています。また、チェックリストを活用し、虐待を見逃さず、早期発見ができるように職員全体で心がけています。虐待の疑いがある場合にはどろんこ会グループの基準をもとに、グループと相談し、区と連携できる体制を整え、組織的に防止に取り組んでいます。</p> <p>区の幼保小連絡協議会に参加し、地域の虐待防止に向け協働して取り組んでいます</p> <p>園のホームページに園だよりや園の年間スケジュール、併設の気になる子どもの支援ルーム、地域の子育て支援の取り組みのニュース「ちきんえっぐだより」を掲載して、地域に発信しています。実習生、ボランティアの受け入れの手引きに基づき、保育専門校の実習生や高校生の保育体験のボランティアを受け入れています。併設施設のカフェスペースで親子クッキング「自然食堂」、園庭開放など子育て支援の取り組みを行っています。区の幼保小連絡協議会に参加し、地域の虐待防止に向け、意見交換や連絡を取り合うなど協働して取り組んでいます。</p>
公表コメント	<p>カテゴリー3の講評補足</p>
非公表コメント	

4	カテゴリ-4	
	リスクマネジメント	
	サブカテゴリ-1(4-1)	
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	
	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	
	評点(00000)	
	評価	標準項目
	あり	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている
	あり	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている
あり	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	
あり	◆4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解し対応できるように取り組んでいる	
あり	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4		
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評点(0000)		
評価	標準項目	
あり	◆1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	
あり	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	
あり	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	
あり	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	
カテゴリ-4の講評		
公表コメント	リスクに優先順位をつけ、それぞれのリスク対策を立て対応できるようにしています	
	園はリスクを洗い出し、災害(地震を含む)、感染症、事故、不審者の順に優先順位をつけています。クライシスマニュアル、危機管理マニュアルで災害、けが(事故)、不審者の各対応フローチャートを策定し、避難などの初動対応、被害状況把握、保護者などへの連絡体制を明示し、職員、保護者に周知しています。災害では消防署、不審者対応は警察署などと連携しています。避難訓練計画では引き渡し、帰宅困難者対策などを策定しています。事業再開の手順など事業継続計画はありますが、実際の場面でより使いやすくなるよう充実させるとよいでしょう。	
	事故報告制度や園内外のハザードマップで事故の再発防止、予防に取り組んでいます	
	事故発生の場合は速やかに子どもや保護者への対応処置を行い、事故記録簿に記録し、どろんこ会グループとも共有します。原因究明と再発防止策について緊急のミーティングも含め全職員会議で話し合います。軽微なけがの場合はインシデント報告、事故にならずに済んだ場合はヒヤリハット報告に記録し、これらの報告書は1か月ごとの事故などの統計も参考に、施設長や職員で構成する毎月事故予防防止委員会で要因分析し、再発防止に努めています。また指をはさみやすい箇所など園内外のハザードマップを作成し、事故の予防にも取り組んでいます。	
非公表コメント	園情報を管理する仕組みを構築し、情報の管理と活用ができるようにしています	
	運営規程や内部監査チェック表の「帳票保管方法・保管期限」に文書の保管期限、廃棄について明示し、これを職員に周知し、文書を管理しています。経営に関する情報は鍵付き書庫に保管し、必要な職員が使えるようになっています。園は文書の電子化を進め、電子文書を取り扱うPCはID、パスワードでアクセス権限を管理し、使わないPCはキャビネットに保管します。どろんこ会グループのプライバシーポリシーには個人情報の利用目的や開示請求への対応を明示しています。職員、実習生やボランティアにも守秘義務の誓約書を提出してもらいます。	
カテゴリ-4の講評補足		

5		カテゴリ5	
職員と組織の能力向上			
サブカテゴリ1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			
評価		標準項目	
あり	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		
あり	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			
評価		標準項目	
あり	◆1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		
あり	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	◆1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		
あり	◆3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		
あり	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		
あり	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		
あり	◆3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		
あり	◆4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		
サブカテゴリ2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	◆1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		
あり	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		

	<p>カテゴリ5の講評</p> <p>職務階層、職務遂行能力に応じたキャリアパスを文書で明示し、職員に周知しています</p> <p>自己の成長を常に意識し、良い保育を目ざし創意工夫するという人材像に基づき、どろんこ会グループのホームページ、採用サイト、実習生、保育フェアなどにより人材を確保します。面接はグループと施設長で行い、採用はグループが決定します。採用後、経験や本人の性格、クラス担当との相性などを考慮し配置します。施設長から一般職員までのキャリアステージ(階層)と職務遂行能力による給与等級及び評価制度によるキャリアパスを文書で明示し、職員に周知しています。また評価制度と連動した職員の課題に基づく人材育成に取り組んでいます。</p> <p>職員の意向や評価結果から課題を抽出し、個人別研修計画につなげています</p> <p>どろんこ会グループの制度研修、外部研修、毎月開催する園内研修に全職員が参加し、非常勤職員も園内研修を受講します。年2回の施設長による職員面接で、年度の初めに個人目標を、年度途中には目標の達成度を確認します。達成度の評価により、昇格、昇給や賞与の査定が行われます。また面接での職員の意向や評価結果から課題を抽出し、個人別育成計画につなげます。主任には力を発揮できるようグループの主任会議に出席させたり、施設長が保育やマネジメントの指導をしています。職員は研修受講後は報告書を提出し、回覧により情報共有します。</p> <p>アンバーサリー休暇や福利厚生への団体に加入し、福利厚生にも力を入れています</p> <p>勤務状況や休暇取得のデータを基に施設長、主任が休暇や残業などの労務管理を行い、シフト体制を作成します。子育て中の職員への配慮や残業は基本的に発生しないよう働きやすい職場環境に配慮しています。施設長面談で意向や個人のキャリアプランなどを把握し、次年度の業務配置に生かします。勤続年数によるアンバーサリー休暇制度や福利厚生への団体に加入し、福利厚生にも力を入れています。行事後の食事会など、人間関係の構築にも配慮しています。委員会やプロジェクトを組織し課題解決に向け組織力の向上に取り組んでいます。</p>
公表コメント	<p>カテゴリ5の講評補足</p>
非公表コメント	

	カテゴリ7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動	
	サブカテゴリ1(7-1)	
	事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
	評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
	前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
	<p>前年度の事業計画で、併設施設である発達支援つむぎとの連携を強め、園の運営につむぎの専門的視点を生かし、インクルーシブな保育を進めることを掲げました。国のインクルーシブ保育に関する動きも受け、具体的には、園とつむぎの子どもたちの給食も別々のテーブルで食べるのではなく、いっしょのテーブルで食べることを目指し、取り組んだ結果、子どもたちが自分の好きな場所を選べるようになったことで、園の子どもとつむぎの子どもがいっしょに混ざり合って食べることができるようになりました。発声のなかった幼児がつむぎの子どもとの交流の中で、言葉が出せ、先生にも返事ができるようになるなどの成果がありました。園行事でいっしょに遊んだり交流したりすることを目指しましたが、これはできませんでした。つむぎはあくまでお手伝いというスタンスであり、いっしょに行くという意識になりきれなかったことが要因です。取り組みの結果は園の施設長、主任、リーダー、つむぎの施設長で振り返りを行い、インクルーシブな保育、施設運営に向け具体的な成果を上げることができ、次年度も行うことを確認しました。行事では、ねらいを共有し次年度は成功できるよう取り組むことを話し合いました。</p>	
	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
	取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
	検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
	評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
	<p>この取り組みを通じ、園とつむぎの職員間のコミュニケーションがよくなりました。いっしょの会議の後に、同じ事務室内にあるそれぞれの職員の机の配置を見直し、園の職員もつむぎの職員も、どの席にでも座ってもいい、フリーアドレスにすることで、職員同士のコミュニケーションが取りやすくなり、相互の子どもを状況把握しやすくなりました。また子どもの集団の力についての見方が変わってきています。つむぎの先生たちは今日の前の子どもの課題に取り組んでいるので、園の子どもまで見ることは難しい、との立場でしたが、集団の中での双方の子どもの変化や成長を目の当たりにすることで、集団により子ども同士のかかわりが増え、人間関係が築かれる力になるとの確信も生まれています。</p>	
非公表コメント	カテゴリ7評価項目1の講評補足	

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p>	
<p>2021年度の事業計画の中で、それぞれの子どもたちが集団の中で自分を発揮できる場を作るため、年長組でプロジェクト型保育に取り組むことにしました。発達を理解を深めるため、園内研修で「10の姿」について、毎回1つずつ取り上げました。ドキュメンテーションなども作り、振り返ることで、5歳児の特徴の理解を深めました。子どもの話し合いの時間は朝の会、帰りの会、こめ組(5歳児)の「こめ会議」を毎日行いました。職員は子どもたちの発信内容を受け止め、また子どもたちも話をよく聞くことの大切さを理解できるようになりました。運動会で何をやりたいか、では「リレー」になり、順番、チーム分けを自分たちで決めました。実際にやってみるとチームの人数がバラバラでどちらが勝ったかわからなくなりました。その後同じ人数にしましたが片方が1人足りなくなり、1人が2度走ることにするなどして、リレーは成功裏に終わりました。子どもたちは、一人ひとりの意見を大切に話し合い、みんなで作り上げた達成感を味わうことができ、所期の目標を達成できました。次年度も取り組みますが、発達の理解にとどまって、発達を踏まえた環境設定は不十分に終わり、次年度の課題としました。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p>具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p>目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p>次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p>
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p>	
<p>取り組みを進めた職員側は当初「うまくできるだろうか」という不安がありました。取り組みを通じ「やれる」という見通しや確信が生まれ、職員の成長にもつながりました。特に子どもたちへの見方は「自分の気持ちを言葉にして表現できる」「友だちや大人と高度のコミュニケーションがとれる」「ルールを理解し、相手の気持ちを考えられる」などの知識のレベルではなく、子どもたちは言われてやるのではなく、みんなで相談し、アイデアを出す子ども、まとめる子ども、動く子どもなど分担してリレー競争という難しいイベントを成功させた、実際の子どもの姿を実感し、自分たちの保育の確信にもなっています。また、5歳児も、保育園の日常活動の中で自分たちより小さい子どもにさまざまなことを優しく教えるなどの姿も見られるようになってきました。</p>	
<p>カテゴリー7評価項目2の講評補足</p>	
<p>非公表 コメント</p>	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
あり	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	
あり	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	
あり	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	
あり	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
サブカテゴリ1の講評		
<p>ホームページ、掲示板、青空保育などさまざまな方法で、園の情報を発信しています</p> <p>園の情報は、ホームページにて発信しています。そのほかにも園の門外に設置されている掲示板に、園の子育て支援「ちきんえっぐ」の予定や行事の案内を掲示しています。月に1度「青空保育」を実施しており、近隣の公園に散歩に出かけ保育をすることで、園児が公園に遊びに来た親子といっしょに遊べる機会を作っています。青空保育で出会った親子に、「ちきんえっぐ」のチラシを配布するなど、直接地域の人とコミュニケーションを図りながら、園の情報を提供しています。</p>		
公表コメント	<p>「どろんこの特色」などさまざまな特色を園ホームページでわかりやすく説明しています</p> <p>ホームページには営業時間や定員などの基本情報、発達支援や子育て支援など園の関連施設、園だよりや献立表などのお知らせ、お問い合わせフォームなどの情報が掲載されています。また、「どろんこの保育」「地域と子育て」「身につく6つの力」などについて詳しく説明しています。裸足保育や雑巾掛け、坐禅や畑仕事、商店街ツアーや銭湯でお風呂の日など、「にんげん力。育てます。」というどろんこの子育て理念からなる特色ある保育について、写真や文章にてわかりやすく説明されています。又、英語や中国語表記への切り替えにも対応しています。</p>	
	<p>入園後の様子が想像できるよう、ていねいな園見学を実施しています</p> <p>園見学の問い合わせがあった場合は、基本的に利用者の希望に合わせて日程を決定しています。質疑応答にていねいに対応するため、1日4組までとしています。園見学は主に施設長が対応しています。「園のしおり」に沿って説明した後、トイレやロッカー、遊具など、入園してどう過ごすか想像できるようにていねいに説明しながら園舎見学を実施しています。見学後は質疑応答に対応しています。離乳食について質問されることが多いため、園見学に来た人には、子育て支援「ちきんえっぐ」で毎週木曜日に実施している離乳食講座を紹介しています。</p>	
サブカテゴリ1の講評補足		
非公表コメント		

		サブカテゴリー2	
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6	
	評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	あり	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	
あり	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
あり	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
あり	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
あり	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		
あり	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		
サブカテゴリー2の講評			
公表 コメント	入園決定後に「入園説明会、健康診断、個人面談」を実施しています		
	入園が決定した子どもの保護者には、入園説明会の案内を送付しています。入園説明会の流れは、全体の説明→入所前健康診断→入所前面談となっています。全体の説明は「園のしおり」や「重要事項説明書」について、施設長が説明します。「重要事項説明書」については説明に漏れがないか確認しながら署名、捺印にて保護者の同意を得ています。特に18時半以降の利用料金については、契約によって料金設定が異なるため、利用時間とかかる料金についてシミュレーションし、わかりやすく説明しています。		
	入園前の面談で、子どもの状況や保護者の保育内容への意向をいねいに確認しています		
入所前面談にて、子どもの入園前の食事状況やアレルギーの有無、言葉や発育状況について確認しています。また、散歩時に長い距離を歩くことや裸足保育、雑巾掛け、坐禅、畑仕事や生き物の世話など、保育方針についての理解や意向も確認しています。入所面接は、施設長、主任、栄養士、看護師、担当保育士がそれぞれ対応しています。面談で確認したことは、入所前児童面談票に記録しています。食物アレルギーのある子どもの場合は、再度栄養士、施設長と担当が面談を実施し、アレルギー除去開始前面談票に記録しています。			
保護者の意向や一人ひとりの子どもの様子に合わせ、慣れ保育を実施しています			
慣れ保育の実施については、基本的に保護者の意向により決定しています。子どもが負担なく少しずつ慣れていけるよう、始めは1時間程度から始め、その日の子どもの様子を迎えの際にいねいに伝え、時間や期間は一人ひとりの子どもの状況に合わせて進めています。朝泣きながらお預かりした子どもについて、保護者も不安が強くなるため、泣いた後どんな様子だったのか主任が把握し、保護者の安心につながるよう様子を伝えています。子どもの不安が強い場合は、個別に事務室で過ごしたり、お気に入りのものを持って過ごせるよう配慮しています。			
サブカテゴリー2の講評補足			
非公表 コメント			

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
あり	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
あり	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している
あり	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている
あり	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている
あり	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している
あり	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
あり	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している
あり	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している

サブカテゴリ-3の講評

子どもの情報は、保育アプリや個人ファイルにて管理し、職員間で共有しています
 個別の子どもの様子は定期的に個別記録(保育アプリ)に記録し、入所前の保護者が記入した子どもの様子については個別ファイルにまとめています。子どもの様子については、幼児と乳児に分かれて実施する会議にて情報を共有しています。各ケース会議は、担当職員、施設長、主任、発達支援つむぎ職員が参加しています。職員用に常備しているタブレット端末のチャット機能にて、子どもの様子や保護者の様子など気付いたことは共有しています。アレルギーのある子どもの状況は半年に1度面談を実施し、状況や対応に変わりがないか確認しています。

全職員が意見を出し合って全体的な計画を作成し、園の目標などを決定しています
 全体的な計画は、2月の策定会議にて今年度職員で振り返りを実施し、新年度職員で園目標を定めるところから全職員で話し合って決定しています。園目標を達成するために、各職員が子どもに経験させたいことを提案し合い、年度の行事や活動などを決定するなど、全ての計画の元となる全体的な計画に全職員が携わり、意見を出し合っているため、園の理念や方針、活動のねらいが職員に浸透しています。年間、月間、週間計画はクラスごとに実施している週会議にて作成しています。指導計画の内容は、6月と11月の保護者懇談会にて説明しています。

子どもの様子や指導計画の内容など、保育アプリや会議にて職員間で共有しています
 指導計画の内容や個人の記録は保育アプリに記録し、全職員で共有しています。各指導計画は定期的に振り返り、省察の欄に記録しています。個人計画や指導計画、個人記録の内容は、施設長と主任が確認しています。主任は、ふだんの保育の様子についても、計画に沿った保育が展開されているか、子どもへのかかわり方はどうかなど確認し、職員の省察コメントに対して所見を記録しています。子どもや保護者の状況に変化があった際は、朝礼や園会議、週会議などで情報を共有し、申し送りや引き継ぎを行っています。

公表コメント

サブカテゴリ-3の講評補足

非公表コメント

サブカテゴリ-5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 <div style="text-align: right;">サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5</div>
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
評価	標準項目
あり	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている
あり	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
評価	標準項目
あり	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
あり	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
あり	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
サブカテゴリ-5の講評	
公表コメント	プライバシーの保護についてマニュアルに定め、情報の取り扱いに配慮しています 職員はマニュアルにて個人情報取り扱いや守秘義務についてなど確認し、取り扱いに配慮しています。入園の際は、保護者に園内で扱う写真や動画、名札や園児情報について説明し、書類にて同意を得ています。また、ホームページなどに保育活動の様子を掲載する際は、写真に写っているすべての子どもの保護者に、掲載の同意を得てから使用するよう体制を整えています。また、保護者との会話で周囲に聞かれたくない内容の場合などは、個室に移動して話をするなど、配慮しています。
	保護者の意向や子どもの羞恥心に配慮し、ていねいに対応しています 園では裸足保育や雑巾掛け、生き物の世話、畑仕事、縁側給食などさまざまな活動に取り組んでいます。園の特徴ある保育については入園前の園見学の際、施設長が詳しく説明していますが、入所前面談の際にも、活動に対しての保護者の意向を確認しています。また、行事の際には、行事のねらいを掲示でお知らせし、保護者に参加するかどうか意向を確認しています。おむつ替えや着替えの際は、パーテーションやラップタオルで周囲から見えないよう配慮しています。5歳児を対象にプライベートゾーンについて伝えるなど、性教育に取り組んでいます。
	職員は会議やマニュアルにて、虐待や人権についての学びを深めています 園会議にて事例を提示し「眠たくない」と子どもが言ったら自分であればどのように対応するかなど、職員間で意見交換をする機会を設け、子ども一人ひとりへのていねいなかわりについて学びを深めています。全職員が4月と10月に「人権擁護のチェックリスト」による確認を各自で実施し、子どもの人権について改めて確認しています。保育品質マニュアルの虐待や人権の項目に「保育士による虐待の定義」が明記されています。職員が毎日目にする更衣室に掲示し、不適切なかかわりに注意する意識が持てるよう工夫しています。
	サブカテゴリ-5の講評補足
非公表コメント	

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	
	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5	
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
	あり	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている
	あり	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	
	評点(〇〇)	
評価	標準項目	
あり	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	
あり	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	
サブカテゴリー6の講評		
どろんこ会グループ共通のマニュアルに、基本的な業務の手順などが明記されています		
感染症マニュアル、危機管理マニュアル、虐待防止マニュアル、苦情対応マニュアルなどがまとめられたどろんこ会グループ作成の「保育運営マニュアル」が園の事務室に置いてあります。手順の確認が必要な際は、マニュアルを確認しています。また職員には1人1冊「保育品質マニュアル」が配付されています。「保育品質マニュアル」には、おむつ替えの手順やミルクの作り方、記録の文章表記の注意事項や、保護者対応のポイント、計画を振り返る視点、投棄の流れなど、細かく定められ、写真、文章、例文などでわかりやすく明記されています。		
公表コメント	必要な際はマニュアルを活用し、定期的に見直しています	
	園会議にて、マニュアルに定められた内容を確認しながら、おむつ替えの手順や嘔吐処理、エピペンの使用、園バスの乗降をシミュレーションし、マニュアルを活用しています。確認中に気になったことは、施設長に確認し、マニュアルの内容の理解を深めています。マニュアルの見直しが必要と感じた際は、園内の意見をまとめ施設長がどろんこ会グループに報告しています。毎年9月ごろに利用者アンケートを実施し、保護者の意見の把握に努めています。アンケートは集計内容を確認し、改善に向けて職員で話し合い、サービス内容の見直しを行っています。	
	「虐待の定義」など必要なことは掲示し、実行できるよう工夫しています	
嘔吐処理やおむつ替えなど、多く行う業務の手順に関しては、すぐに手順を確認できるようマニュアルを掲示しています。職員の更衣室の出入り口には、マニュアルに明記されている「保育者による虐待の定義」14項目を掲示しています。「大きな声を出す」「布団ごと引っ張る」「部屋から閉めだす」など、職員が必ず出勤前に確認できる場所に掲示するなど、マニュアルの内容が徹底できるよう工夫しています。散歩先で固定遊具を使用する際の職員の立ち位置などもマニュアルに定められており、職員は確認し実行しています。		
サブカテゴリー6の講評補足		
非公表コメント		

Ⅲ サービスの実施(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 35/35	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	あり	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	
	あり	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	
	あり	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	
	あり	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	
	あり	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつキ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	
	あり	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	
評価項目1の講評			
<p>子どもが自分で考え自分の思いを表現できるよう、職員は配慮しかかわっています</p> <p>子どもが自ら遊具を手にとって遊べるように、遊具は低い棚に並べられています。物の置き場は写真で提示されており、使ったものを元の場所に子どもが自ら考えて片付けられるよう、環境が整えられています。子どもが興味関心を示したことに夢中になっている際は、職員は言葉をかけ過ぎずに見守る姿勢を大切に、子どもが自分で考え試し感じる機会が持てるよう配慮しかかわっています。子どもが日課として行う雑巾掛けや裸足保育について、職員学習会に希望者が参加し、その活動の意味を学び、自ら体験し、職員も主体的に取り組んでいます。</p>			
公表コメント	<p>発達について職員も子ども同士も理解し頼り合い手を差しのべ合えるよう援助しています</p> <p>「発達支援つむぎ」が併設されており、配慮が必要な子どももいっしょに生活や遊び、活動を共に行っています。みんなといっしょに着替えることが苦手な場合は、まずは個室を利用して着替えてみるなど、場面に応じて対応し、徐々にできることが増えていくよう段階的に目標を定め援助しています。また歩くことが苦手な子が遠方まで散歩に行く場合は、子どもたちと共に、みんなといっしょに活動に参加できる方法を検討して行くなど、いっしょに過ごす中で子ども同士も頼り合い、手を差しのべ合えるよう職員は援助しています。</p>		
<p>卒園児や小学校との交流を通して、就学への関心や期待を高めています</p> <p>コロナ禍で中止になっていた、小学校との交流が今年度より再開し、5歳児が小学校で学校給食を食べる経験をする「交流給食」や、学校の中を見学させてもらう「学校探検」を実施することが決まっています。小学校の授業参観に職員が参加し、1年生の学校生活を実際に見て感じたことを、園の活動に取り入れています。子どもたちがひらがなに興味を持った際は、授業参観で感じた文字の書き順を意識できるよう、子どもの様子をていねいに見ています。また、卒園児を招いて学校で使用しているランドセルや教科書を実際に見せてもらう機会を設けています。</p>			
非公表コメント	評価項目1の講評補足		

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	あり	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
	あり	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
	あり	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
	あり	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	
評価項目2の講評			
公表コメント	登園時の様子を視診し、子どもの体調や家庭での様子を保護者に確認しています		
	登園の際は、視診や検温のほかに保護者から家庭の様子や体調などを聞き、子どもの体調や家庭での様子について確認しています。引き継ぎが必要な内容は「シッターノート兼お迎え伝達ノート」に記録しています。職員で共有する必要がある事項については朝礼で報告するなど職員間で情報を共有しています。子どもが寝不足で眠い時や、風邪気味で外遊びを控えてほしいなどの場合は、子どもの様子に配慮し静かに室内で過ごせるよう職員体制を整えています。けがや傷に気づいた際は、写真を撮影し、記録に残しています。		
	生活や遊び、労働を通して、生活に必要な力が身につくよう援助しています		
	園では日中、太陽が出ている時間は目一杯屋外で活動し、日常生活や遊び、労働(畑仕事ややぎや鶏の世話など)から「生きる力」を身につけていこうと考えています。そのため9時には散歩に出発できるよう、8時半までの登園をお願いし家庭と協力して子どもの生活リズムを大切にしています。食事では無理やり食べさせたり、箸の持ち方を教えたりするより、まず「手づかみ」で食べる力や意欲を養うことを大切に考えています。箸への移行やトイレトレーニングなど、園や家庭での子どもの様子を保護者と共有しながら、タイミングを決めて進めています。		
非公表コメント	「3分間対応」にて、その日の子どもの様子をていねいに知らせています		
	園でのその日の様子を、乳児は連絡帳にて毎日知らせるほか、0～5歳児は保育アプリを利用し、各クラスの遊びや活動の様子を保護者に知らせています。個別の子どもの様子は、エピソードを添えて保護者にていねいに知らせるなど、迎えの際の対応は「3分間対応」を心がけています。連絡帳ではなく直接言葉で様子を伝える機会を大切に考えており、親子が園での出来事を家庭に持ち帰り家庭でも会話が生まれる事を願い対応しています。一人ひとりていねいに対応する事で保護者を待たせてしまうことや、忙しい時の対応についても改善を検討しています。		
評価項目2の講評補足			

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
	あり	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	
	あり	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
	あり	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
	あり	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	
	評価項目3の講評		
公表コメント	遊びごとにゾーンを設けるなど、子どもが落ち着いて遊べる空間を設定しています 各保育室は遊びごとにスペースを区切り、製作、ままごと、絵本、パズルなどゾーンを設け、集中して遊べるよう環境を設定しています。広々としたテラスで布縄跳びをしたり、ダンボールを乗り物に見立て買い物ごっこをしたり、職員の目の届く範囲で自分のやりたい遊びを選択しています。遊具の取り合いが生じた際は職員が間に入り、ただ貸し借りできるよう促すのではなく、それぞれの子どもが感じた「使いたかった」「取られて嫌だった」という思いや、その時の自分の思いを表現する瞬間を大切に考え、その思いを受け止めるようかかわっています。		
	絵本の読み聞かせ、楽器演奏、製作などさまざまな表現活動に取り組む機会があります 各クラスに絵本コーナーが設けられており、ふだんから絵本に親しむ環境があります。1日に3回程度読み聞かせを行い、職員は「いい言葉で保育することを心がけています。音楽指導の時間もあり、マラカスや太鼓、けん盤ハーモニカや鈴などの楽器に触れ、けん盤ハーモニカ演奏を行事で発表する子どももいます。室内には子どもが描いた絵や季節の製作物が飾られています。クレヨン画や、廃材や自然物を利用した製作物など、子どもの作品が園内に飾られています。子どもたちが季節を感じながらさまざまな表現活動に取り組む機会がたくさんあります。		
	散歩先で自然に触れたり、製作や楽器遊びなどさまざまな活動を取り入れています 毎日目的に合わせて散歩先を選択し、異年齢にて散歩に出かけています。散歩先では虫や木の実や落ち葉に触れたり、拾ってきた落ち葉で製作をするなど、遊びに季節を取り入れたり季節を感じたりする機会があります。けん盤ハーモニカやマラカス、鈴や太鼓など、ふだんからさまざまな楽器に触れる機会があり、行事の中で得意になった楽器の演奏を披露する機会も作っています。そのほかにも体育指導や音楽指導などさまざまな活動を取り入れています。		
	評価項目3の講評補足		
非公表コメント			

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
	あり	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
	あり	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評			
公表 コメント	子どもにとって必要な経験について毎年話し合い、行事内容を決定し実施しています 「どろんこ祭り」「運動会」「生活発表会」などさまざまな行事を実施しています。そのほかにも年度末の策定会議にて全職員で子どもたちに必要な経験を話し合い、さまざまな行事を実施しています。今年は食べ物を大切に感じる経験を促したいと思い、子どもたちに「命をいただいている」大切さを伝えるため、園で飼っている鶏を肉にし、焼いて食べるまでを子どもたちに体験させ、その結果、残食が少なくなりました。行事の実施にあたり、職員は「子どもにとって必要か、子どもはどう感じるか」という視点で、何度も話し合いを行っています。		
	行事に子どもの意見を取り入れ、経験を通してやり遂げる機会を大切にしています 運動会では、子どもたちの「運動会ではリレーをしたい」という言葉から競技を決定し、「どのようにリレーをするのか」と試行錯誤しながら取り組んでいく機会を大切にしています。「走る人数をそろえたほうがいい」「走る順番を変えたほうが勝てる」など、失敗や悔しさについて子どもたち同士で話し合い、繰り返し練習を行っています。どの行事も、子どもが意見や考えを出し合い、経験し、感じたことを、また次に生かせるよう、おとなが先回りして手助けし過ぎないようかかわり方に配慮し、子どもたちが自分たちでやり遂げられるよう促しています。		
	行事のねらいを保護者にていねいに知らせることにより、理解と協力を得ています 遠足などの行事では、事前に保護者に行事の目的やねらいをお知らせしています。行事後は写真や文章にて行事の様子をお知らせしています。また、子どものみの行事の参加についても、保護者にねらいや内容を理解してもらった上で、行事参加の同意を得て実施しています。保護者有志による「どろんこサポーターズ」の保護者には、園のどろんこ祭りで出展の手伝い、運動会では用具の手伝いなどの協力を得ています。そのほか保護者へお手伝いを募集することもあり、園の行事への理解や協力を得ています。		
非公表 コメント	評価項目4の講評補足		

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
	あり	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評			
公表 コメント	子どもが安心して過ごせるよう、職員体制に配慮しています 乳児と幼児でクラスが分かれています。18時半以降は幼児が乳児の部屋へ移動し、いっしょに過ごしています。職員のシフトは日によって変更していますが、乳児と幼児の職員どちらも時間外の保育に携われるよう配置し、乳児も安心して過ごせるよう配慮しています。乳児と幼児で合同保育を実施する際は、活動によっては仕切りを作り、お互いが安全に、また思いきり過ごせるよう配慮しています。最終的には事務室の隣にある子育てセンター「ちきんえっぐ」の部屋へ移動し過ごしています。		
	子どもがどの時間でも好きな遊びを楽しめるよう環境に配慮しています 朝8時までに登園した、0歳児、1歳児には8時15分に朝の補食として牛乳を提供しています。19時半を過ぎるお迎えの場合は、19時に夕食を提供しています。夕食の際は遊ぶスペースと食事のスペースを分け、安全に過ごせるよう配慮しています。子どもたちが部屋を移動する際に、遊びたい遊具がある場合は、その遊具を持って行き、子どもがやりたい遊びが楽しめるよう配慮しています。また、一番最後に過ごす子育て支援「ちきんえっぐ」の部屋には、ふだんは使用しない遊具やゲームで遊び、子どもが楽しく過ごせるよう配慮しています。		
	「シッターノート兼お迎え伝達ノート」にて子どもの様子を職員間で引き継いでいます それぞれのクラスの年間計画に、「一人ひとりの生活リズムに配慮して過ごせるようにする」「1人でじっくり遊べる時間も大切にしつつ、他児とも関わることができるようなコーナーやゾーンを設けられるよう工夫する」など、保育時間の長い子どもへの配慮が記されています。毎月保育時間の長い子どもの様子や配慮について振り返りを行っています。保育時間の長い子どもの日中の様子や保護者への伝達内容は、「シッターノート兼お迎え伝達ノート」に記録し、職員間で引き継ぎを行い、漏れがないよう配慮しています。		
非公表 コメント	評価項目5の講評補足		

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(0000)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
	あり	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
	あり	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
	あり	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
評価項目6の講評			
公表 コメント	子どもが楽しく食事ができるよう、メニューや食事環境に配慮しています 園での食事は、自分たちの好きな時間に好きな人と好きな場所で、食べたいだけ食べられるようにと考えており、「お腹が空いたら食べる」「食べたい場所を自分で決める」という、子どもが主体的に食事に向かえる環境を整えています。又、自分たちでテーブルを運んだり拭いたりなど食事の準備を進めています。誕生日には、特別プレートに給食が盛り付けられ、子どもたちの楽しみとなっています。桃の節句にはちらし寿司、進級のお祝いには赤飯を提供するなど、メニューも季節や行事を感じられるよう工夫され、子どもたちの楽しみとなっています。		
	子どもたちの喫食状況を確認し、食べ残しが少なくなるよう工夫しています 毎月給食会議を実施し、職員と栄養士が子どもの喫食状況などについて情報を共有しています。園ではSDGsの取り組みについて考え、調理の際に出たゴミなどで肥料を作ったり残食を減らしたりする取り組みを実施しています。おやつのおにぎりの残食が多い時には、自分で握って食べられるように工夫したり、子どもたちに「命をいただいている」という事を経験を通して学んでほしいと考え、職員は何度も話し合いを重ね、飼っている鶏を肉にする機会を設けました。このような取り組みを通じ、子どもの残食が減っています。		
	安全に配慮しながら、食べ物への興味関心が高まる取り組みを実施しています 食物アレルギーのある子どもへの食事提供は、職員がマニュアルの手順に沿って対応しています。食事中は食べこぼしがあるため、床に落ちたものはすぐに拾って、子どもが誤食しないようにするなど、安全に食事ができるよう職員に指導しています。園内の畑では、じゃが芋やなす、きゅうり、こまつな、いちごなどを栽培しています。畑仕事で水やりや収穫を経験したり、野菜の皮剥きや包丁を使って野菜を切るなど、食材へのかかわりが多くあります。園での経験がきっかけで、家庭で手伝いをするようになったなど、保護者から喜びの声が寄せられています。		
非公表 コメント	評価項目6の講評補足		

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(000)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
	あり	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
	あり	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
評価項目7の講評			
公表 コメント	保健計画に沿って、子どもが健康や安全に関心が持てるように取り組んでいます 施設長や看護師が中心となって、保健計画を作成しています。毎月子どもが健康や安全に関心が持てるよう、「朝ごはんを食べよう」「歯磨きについて」「消化吸収とうんちの話」「感染症について」などのテーマについて、子どもたちに話や絵本でわかりやすく伝えています。また、手洗いチェッカーを使用して手洗い指導やうがい指導、歯磨き指導なども実施しています。交通安全指導では道路の渡り方やどんな危険があるのかなどDVDを見ながら学び、散歩に出かける時など、実践しています。		
	けがなどの場合は、迅速に対応できるよう体制を整えています 0歳児は毎月、1～5歳児は年に2回嘱託医により健康診断を実施しています。嘱託医には、予防接種のタイミングなど、保健面での不安や疑問を電話で相談しています。食物アレルギーのある子どもの食事提供について保護者と定期的に面談し、除去の程度は医師の指示のもと決定し、食事を提供しています。園内でけがをした場合は、子どもの傷の様子を写真に撮影し、どろんこ会グループの緊急連絡先に連絡しています。グループの判断のもと通院の必要があるか見極め、保護者に連絡しています。嘱託医やグループと連携し、病気やけがに対応しています。		
	「睡眠チェック」「裸足」「薄着」など、子どもの健康維持に取り組んでいます 園内研修にて乳幼児突然死症候群(SIDS)の生存確認や心肺蘇生法の確認を行っています。午睡中は5分おきに体位や布団の位置、バイタルなどをチェックし、記録しています。トイレ・おむつ替えエリアは汚染エリアとして、子どもたちが通らないよう動線を考えて設置するなど、配慮しています。嘔吐処理のシミュレーションを定期的実施し、職員が誰でも対応できるよう学んでいます。園内での感染症発生状況については、掲示やアプリにてお知らせしています。子どもの健康維持のため、「裸足」「薄着」で過ごすことを保健便りにて知らせています。		
非公表 コメント	評価項目7の講評補足		

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目		
	あり	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		
	あり	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		
	あり	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		
	あり	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		
		あり	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評				
公表 コメント	急な残業など保護者の就労事情に考慮し、職員体制を整え対応しています			
	電話連絡などで保護者より急な残業の連絡が入った場合は、安全に保育できる職員体制を整え対応しています。担任だけでなく、主任など担任以外の職員も、送迎する保護者の様子を見守り、日ごろより言葉を掛けさりげない対話の中で保護者の思いをくみ取れるよう対応しています。園では個人面談をあえて設けておらず、日々の保護者との対話の機会を大切にしたいと考えています。対話から子育ての相談などの話題になった際は、個室でゆっくり話せる環境へ移動し、随時相談に応じている体制を整えています。			
	保護者懇談会など、保護者同士が交流しながら子育てについて話し合える機会があります			
	年に2回保護者懇談会を実施し、職員と保護者、保護者同士が交流できる機会を設けています。保護者懇談会では、クラスごとにテーマを設定して話し合ったり、保護者にアンケートを取り、「言うことを聞いてくれない時のかかわり」や「夜寝てくれない」など保護者から上がった内容について話し合ったりするなど、子どもへのかかわり方や子どもの育ちについて考え、子育ての参考になる内容となるよう配慮しています。また、職員は保育のねらいや内容、子どもの育ちについて伝え、園の保育への理解が深まるよう取り組んでいます。			
	随時保育参加を受け付けており、保護者は保育者の1日を体験することができます			
	園の保育活動への参加として、保育参加を実施しています。保育参加は随時募集しており、希望者がカレンダーに名前を入れ1日1人受け入れています。保護者は保育の様子を見たいと感じた場合は、何度でも参加が可能です。保育参加は、保護者が1日クラスの保育に参加し、保育士の子どもに対するかかわりや、子どもたちの様子を実際にかかわりながら見る機会となっています。保育参加後は、その日の保育について保護者と職員がいっしょに振り返りを行い、職員が大切にしている事や子どもを見る視点などについて保護者に伝えています。			
非 公表 コメント	評価項目8の講評補足			

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
	あり	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評			
公表 コメント	商店街や銭湯、多数の公園など、子どもにとってさまざまな経験や交流ができます		
	毎週、商店街ツアーを実施しており、八百屋に買い物に行ったり、郵便局にハガキを買いに行ったり、そのほかにもパン屋、花屋、神社など地域の商店街のさまざまな店や施設に出かけています。近隣には20か所ほどの公園があり、年齢や目的に合わせて毎日散歩に出かけ、遊具で遊んだり木の実や生き物を探したりして遊んでいます。現在は新型コロナウイルス感染症予防のため中止していますが、園と毎月利用契約をしている銭湯を利用し地域の方と裸の付き合いをするなど、園外に出て子どもが多様な経験や交流ができる機会をたくさん取り入れています。		
	ゴミ拾いや書道、外国語の遊びなど、さまざまな活動を通して地域の人と交流しています		
	自治体のゴミ拾いに参加し、地域の人々と交流しながらいっしょにゴミ拾いを行っています。また、地域の人々が園に来て、書道や布縄跳び作り、駒まわしを行うなど、子どもと地域の人々が交流する機会があります。5歳児は書道を体験したり、作った縄跳びで遊んだりさまざまな人のかかわりを通して、多くの経験をしています。外国籍の地域の人にフィリピン語やフィリピンの遊び、インドの遊びやそれぞれの国のじゃんけんのやり方などを教えてもらうなど、園内でさまざまな人と交流する機会がたくさんあります。		
	夏まつりなど、卒園児や地域の人々が園の行事に参加し、在園児と交流する機会があります		
	夏まつりなどの園の行事に、地域の人や卒園児を招待し、いっしょにゲームをするなど、交流する機会があります。夏休みと冬休みに、卒園児に手紙を送付し、園に来て学校の話をしてもらえるようお願いしています。卒園児がランドセルや教科書など学校で使用しているものを持参して来園し、5歳児は卒園児から学校の事を教えてもらっています。園庭でいっしょにどろ遊びを楽しむなど、地域の人や卒園児などさまざまな人と交流できる機会を設けています。子育て支援「ちきんえつぐ」に来園した親子といっしょに遊ぶこともあります。		
非 公表 コメント	評価項目9の講評補足		

調査対象	保育園を利用している76世帯を対象に調査を実施しました。在園児は91名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。		
調査方法	アンケート調査は無記名方式で、配付は施設を通じて利用者へ手渡し、回収は保護者から直接評価機関へ郵送する方法によりました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、保育園に報告しました。		
利用者総数	91		
利用者家族総数(世帯)	76		
共通評価項目による調査対象者数	76		
共通評価項目による調査の有効回答者数	52		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	68.4%		

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が30人(57.7%)、「満足」が21人(40.4%)で「満足」以上の回答は合計51人(98.1%)でした。

自由意見には、「子どもがのびのびと遊んで、とても楽しそうです」「一人ひとりをよく見て、各々に合わせて対応をしてくださいます」「今の世代の子どもが本当に身につけるべき力を考え、実行してくれていると感じます」「理念がしっかりしていて、子どもの気持ちに寄り添った保育をしてくれます」「インクルーシブ教育の考えに沿っています」「命の大切さを学べます」「登園時の持ち物も少なく、ITも上手く活用して日々の連絡もアプリを通じて対応でき、とてもありがたいです」「非常に合理的で、効率的な運営をされていると思います」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」で98.1%、「保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか」で96.2%、「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」で94.2%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	51	1	0	0
<p>「はい」が98.1%、「どちらともいえない」が1.9%でした。</p> <p>自由意見には、「毎日戸外活動に連れ出して、体力がついていると感じ、満足しています」「子どもを『預かる』のではなく、『育てる』ことを大事にしてくださっていると感じます」「静の時間も作ってくれているため、オンとオフの切り替えが、少しずつできるようになってきていると思います」「異年齢保育が良いです」「生きる力が育ちます」「全身を使った遊びや取り組みをしていて、運動能力がぐんぐん伸びているように感じます」などの声がありました。</p>				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	49	3	0	0
<p>「はい」が94.2%、「どちらともいえない」が5.8%でした。</p> <p>自由意見には、「異年齢保育にて学年の垣根を超えたかわりを作ってください、発達に応じて対応をしてくださっていると感じています」「興味を持てるように、先生方が工夫をしてくれていると感じています」「興味・関心を持って行えるよう、工夫をしてくれていると思います。そのうえで何を選ぶか、待ってくださいます」「どろん遊びや畑仕事、動植物の世話、地域交流や魚のさばき方などの料理や性教育など、楽しく体験させてあげられます」などの声がありました。</p>				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	47	4	1	0
<p>「はい」が90.4%、「どちらともいえない」が7.7%、「いいえ」が1.9%でした。</p> <p>自由意見には、「いつもおいしいご飯が食べられて、うらやましいほどです。お皿もわざと割れるものを使うなど、家庭ではできない工夫をしてくださり、感謝です」「バラエティ豊かに組んでくれていると思います。子どもの栄養は、ここで補われているというくらい感謝しています」「おやつは単純なお菓子ではなく、おにぎりなどなので良いと思っています」「本当においしい給食で、保育参加の時、びっくりしました」などの声がありました。</p>				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	50	1	1	0
<p>「はい」が96.2%、「どちらともいえない」が1.9%、「いいえ」が1.9%でした。 自由意見には、「お散歩で商店街の方々と話す機会もあるようで、地域の方々に見守ってもらえている気がします」「泥遊び、畑仕事、にわとり・やぎとの触れ合いなど、さまざまな体験を日常的にさせてくれていて、外へも積極的に連れていってくれており、満足しています」「原体験として、鶏の産卵、野菜の収穫などを学ぶ機会があります」「園庭が土、動物が放し飼いです」「田植えや稲刈りも良いです」などの声がありました。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	43	5	2	2
<p>「はい」が82.7%、「どちらともいえない」が9.6%、「いいえ」が3.8%、「無回答・非該当」が3.8%でした。 自由意見には、「ネットから予約変更ができた、連絡帳がアプリだったり、大変助かっています」「今は変わって、助かっています」「仕事時間+通勤時間以外の時間についても、柔軟に預かってくれます」「保育時間を変更したことがないため、わかりません」などの声がありました。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	38	13	1	0
<p>「はい」が73.1%、「どちらともいえない」が25.0%、「いいえ」が1.9%でした。 自由意見には、「お散歩前の点呼(人数確認)をしている姿を何度か見ましたが、しっかりとやったださっていると感じました」「何かあった時は、すぐに園全体で対応策を考えてくれて、実践してくれています」などの声がありました。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	44	8	0	0
<p>「はい」が84.6%、「どちらともいえない」が15.4%でした。 自由意見には、「働いている保護者が多いので、イベントは土曜日にしてくださいなど、考えてくださっていると感ずいます」「休日前の保護者会や土曜の行事など、私の仕事のペースには合っています」「年間行事日程がありますが、コロナ禍の関係もあってか、直前に日にちが発表になったことがありました」などの声がありました。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	41	10	1	0
<p>「はい」が78.8%、「どちらともいえない」が19.2%、「いいえ」が1.9%でした。 自由意見には、「連絡帳や園で温かい言葉をかけてくれ、寄り添ってもらえていると感じられます」「担当でなくても声をかけてくれることがあり、相談しやすい環境です」「自由度が高く、子どもを預ける上で、とても信頼をしています」「先生方のチームワークが良いです」「経営層の人柄が良く、その雰囲気が周りの雰囲気により影響を与えているようです」などの声がありました。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	39	12	1	0
<p>「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が23.1%、「いいえ」が1.9%でした。 自由意見には、「おもちゃの片付け方法をいつも見なっています。お掃除してくれる職員を見て、子どもは家でもお掃除をがんばってくれています」「泥にまみれた保育の中では限界があり、その点を考えれば、十分きれいです」「建物がきれいです」などの声がありました。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	45	7	0	0
<p>「はい」が86.5%、「どちらともいえない」が13.5%でした。 自由意見には、「先生達もみんな笑顔で親しみやすく、安心して預けられます」「先生方は元気で活気のある方ばかりです」「先生方はいつも目を合わせて、話をしてくれます」「いい意味でフレンドリーです」「どの先生も我が子の名前、普段の様子について知ってくださっています」「子どものことだけでなく、保護者のことも気にかけてくれます」「先生方は優しいです」「寄り添ってくれる先生が多い印象です」などの声がありました。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	44	6	1	1
<p>「はい」が84.6%、「どちらともいえない」が11.5%、「いいえ」が1.9%、「無回答・非該当」が1.9%でした。 自由意見には、「けがの報告などは、しっかりとしてくださっています。安心してお預けできます」「発熱時のお迎え依頼も、焦らせるような言い方ではありません」などの声がありました。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	40	12	0	0
<p>「はい」が76.9%、「どちらともいえない」が23.1%でした。 自由意見には、「子どもがけんかをしている時に、ちょうどお迎えになったことがあります。お互いが納得するまで、しっかりと対応してくださっていて、ありがたい限りです。お手本にしています」「信頼していますが、どのように解決に至ったのかを教えてください」と今後の参考になると思います」などの声がありました。 その一方で、「子どもの人数の多さから、子どものトラブルに対処できていない時もあると感じています」という意見もありました。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	46	5	0	1
<p>「はい」が88.5%、「どちらともいえない」が9.6%、「無回答・非該当」が1.9%でした。 自由意見には、「とても大事にしてくれていると感じています」「決めつけたり、見離したりすることなく、向き合ってくれています」「子どもの言うことを『聞く』を大事にしています。小さい頃から自主性を大切にしてくれて、先生はフォローをしてくれます」「子どもごとに対応を変えてくださったり、苦手なことも強制的にやらせるのではなく、会話をして交渉している姿をよく見ます」などの声がありました。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	44	6	2	0
<p>「はい」が84.6%、「どちらともいえない」が11.5%、「いいえ」が3.8%でした。 自由意見には、「プライベートな内容について伝えた際に、あまり言わないでくださいとお願いしたら、対応をくださって、さすがだと改めて感じました」などの声がありました。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	44	4	2	2
<p>「はい」が84.6%、「どちらともいえない」が7.7%、「いいえ」が3.8%、「無回答・非該当」が3.8%でした。 自由意見には、「全てに意味があることを、説明してくれます。けんかも大事です」などの声がありました。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	37	9	1	5
<p>「はい」が71.2%、「どちらともいえない」が17.3%、「いいえ」が1.9%、「無回答・非該当」が9.6%でした。 自由意見には、「以前、伝えことについて、すぐ対応してくれました」「すぐ対応してくれます。そして、どんな経緯でそうなったのかなど、誠実に説明をくださいます」「個別に説明をしてくれています」「伝えたことがないのでわからないが、対応してくれると思います」などの声がありました。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	27	12	11	2
<p>「はい」が51.9%、「どちらともいえない」が23.1%、「いいえ」が21.2%、「無回答・非該当」が3.8%でした。 自由意見には、「聞いたことがないので、わかりません」「職員以外の人にも相談できることを、この設問で知った程度に伝えられていません」などの声がありました。</p>				